

<巻頭言>

炉物理の研究「仁科浩二郎先生追悼特集号」の発刊にあたって

日本原子力研究開発機構 須山 賢也 (2026年度炉物理部会長)
原子燃料工業株式会社 牛尾 直史 (2025年度炉物理部会長)

2026年1月20日、名古屋大学において炉物理の研究を長年にわたり牽引されてきた仁科浩二郎先生がご逝去されました。ここに謹んで追悼の意を表します。

仁科先生は長い間我が国の原子炉物理の標準的教科書として使用されてきた、John R. Lamarsh による Introduction to Nuclear Reactor Theory の和訳本「原子炉の初等理論」(ラマーシュ本)の共訳者の一人として広く知られており、我が国において原子力を学んだ学生なら、ラマーシュ本は読んだことがなくてもその名前は聞いたことがあるという、まさに1970年代から1990年代にかけて、我が国を代表する原子力研究者・教育者の一人でした。

名古屋大学では高水準の研究成果を生み出す素地を作り、国内外の原子力開発で中核的な役割を担う多くの人材を輩出するだけではなく、核燃料サイクルの確立に不可欠な臨界安全性管理の概念と知見を取りまとめた、我が国初の臨界安全ハンドブックの編纂において中心的な役割を果たされたことは、仁科先生の大きな業績の一つです。また、1994年および1995年には炉物理部会の部会長として、その活動と運営に尽力されました。

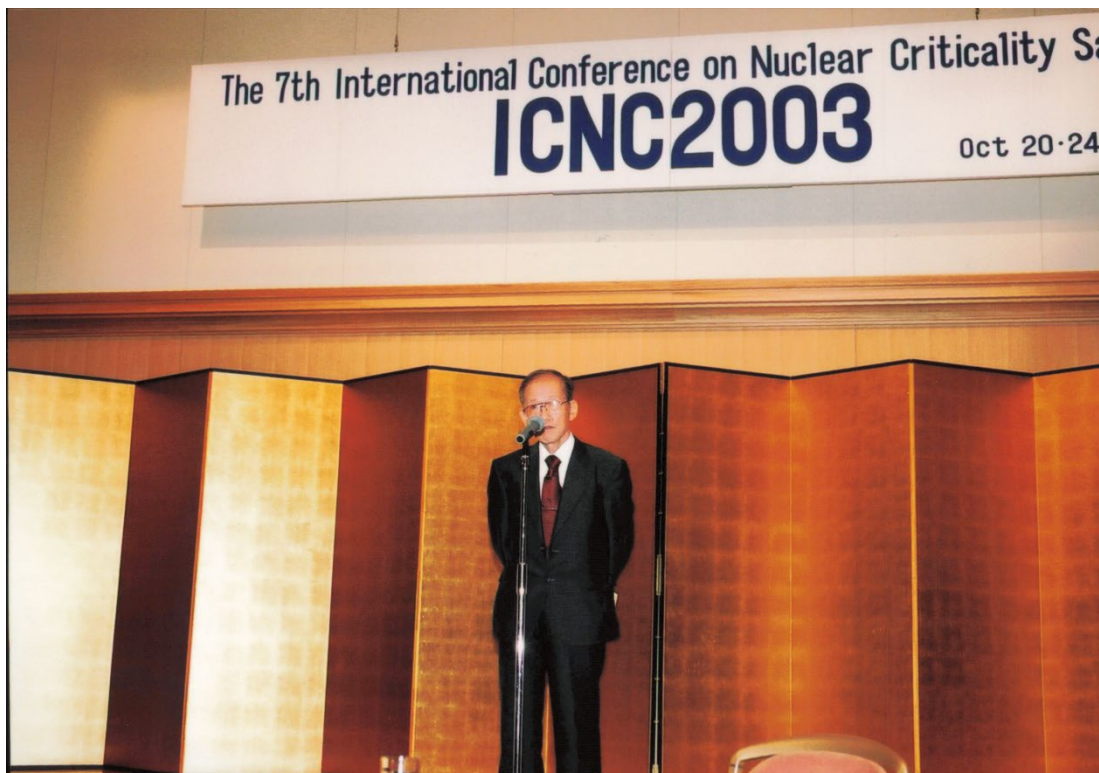
仁科先生ご逝去にあたり、炉物理分野における先生の輝かしいご功績を称えるとともに、先生と交流があった方々の記憶を通じてその業績を部会員の皆様に共有することが本部会の責務であると考え、「炉物理の研究」の特集号として追悼文集を発刊することといたしました。

追悼文の寄稿は、仁科先生と長年にわたり親しく交流し、そのご功績をよくご存じの方々にお願いました。突然の依頼にもかかわらず快くご賛同いただきました執筆者の皆様に深く感謝申し上げます。海外からは、チャルマース工科大学の Imre Pazsit 先生より仁科先生ご家族宛の追悼メッセージを賜り、ご家族および Pazsit 先生のご厚意により本追悼文集に掲載しております。

本特集号が炉物理に関係する多くの皆様に共有され、仁科先生のお人柄とご功績が我々の心の中で永く記憶される一助となれば幸いです。改めて仁科先生のこれまでのご貢献に深く感謝申し上げます、心よりご冥福をお祈りいたします。



ICNC2003 バンケットにて



ICNC2003 でのご挨拶